



迫桜



夢はばたけ未来へ!!

第35号

A 活動

仙北支部総会

県北支部総会に参加して

6月15日(金)

副会長 小澤 大助

6月15日、登米市の中田生涯学習センターにおいて宮城県高等学校PTA連合会県北支部総会が開催され、迫桜高校PTAからは正副会長に事務局を加えた4名が参加しました。

昨年度までは登米市、栗原市の公立高校8校で組織されていた仙北支部に、本吉支部の5校の公立高校が加わり計13校で新たに県北支部と名称を変更し活動がスタートしました。

総会では7議案が上程され協議を経て全ての議案が可決承認されました。その後、佐沼高校PTAの氏家会長を座長に研究協議が行われ、県高P連で取り組まれている健全育成委員会、進路対策委員会、調査広報委員会での活動の報告発表が行われました。また、質疑応答では日頃PTA活動を通して感じている疑問や悩み等の発言も参加者から出され、それに対して発表者や事務局の先生方からの意見やPTA運営のアドバイスがやり取りされるなど終始和やかな雰囲気の中でPTAを楽しく活発に運営していく為の有意義な意見交換や情報交換の場になりました。

中でも私が最も印象に残った発言は、岩ヶ崎高校の吉田校長先生の発言の中でPTA活動に消極的な保護者が多くなったりマスコミやネット上でPTA不要論が囁かれる現在のPTAを取り巻く厳しい環境の中で活発なPTA活動を展開する為のキーワードは「PTA活動をする、見る、支える、知る」ではないかという言葉でした。

二度とない生徒達の高校生活がより良いものとなるように多くの保護者が力を合わせPTA活動に取り組む事で生徒達の学校生活の良き応援団になれる事、そしてPTA活動に参加する事で私たち保護者も多くの子を学び成長出来るという事を知ることができました。

今後も様々なPTA活動を通してより良い教育環境や学校運営の一助となれるよう取り組んで行く事の重要性を考えさせられた有意義な総会でした。

東 北 大 会

7月6日(金)

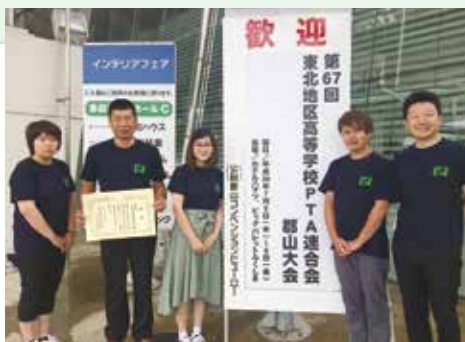
東北地区高P連郡山大会に参加して

常任委員 高橋 紀子

前日からの雨で夏にしては涼しいと感じた7月6日、「こころ豊かなたくましい人づくり」～変化に対応し、未来を拓く力を～をテーマとして福島県産業交流館ビッグパレットふくしまへ1520名の方々が東北6県より参加された郡山大会。詩人の和合亮一さんによる「決意」という詩で出迎えてくれました。震災で悔しい思いをした事を忘れないよう残された人は命を大切に生きていくという事が伝わる詩でした。

研究協議では、「社会の変化に対応し、未来を切り拓く子どもたちの力を育むPTA活動」をテーマに各県代表の発表がありました。代表校5校は歴史も古くからある伝統校でした。私は本部役員として今年初めて参加するという事で自分が果たして役に立っているのか正直な話、不安でした。秋田県の矢島高校PTAの話の中で誰でもできる最低限のささやかな活動。楽しみながら、協力し合い、学び合う姿は、これからの地域を作る上でも大きな活力となるものと思う。社会の急激な変化の中でも人との結び付きがいろいろな困難を乗り越える力となる事を大人の背中を通して子ども達に伝えたい。その通りだと共感しました。

あと、青森県立板柳高等学校のPTA会長の三戸さんは五女も育ててPTA活動を27年間もしてきたというのは驚きました。三戸さんはPTA活動は自身の活性化に繋がったと感じています。地区ばかりではなく多くの方々と出会い、常に刺激を受け自分自身の学びの場でもあるそうです。福島県立郡山商業高等学校のチアリーディング部による演技は全国大会で4連覇しただけあって息がぴったりで見ごたえある演技でした。福島県立塙工業高等学校和太鼓部は伝統芸能だけあって迫力ある演奏でした。講演ではあの有名なソウルオリンピック銅メダリストの山口香氏の話聞くことが出来て最高でした。最後に郡山市立高等学校合唱連盟、管弦楽団、総勢250名による演奏は素晴らしかったです。今回運良く大会に参加できた事に感謝して、今後のPTA活動に学んだ事を活かし取り組んでいきたいと思っています。



研修旅行

7月21日(土)

前期の



PTA研修旅行に参加して

常任・企画委員 芳賀 光章

猛暑の中、PTA会長、副会長、先生方をはじめ、役員の方々9名の中に一般会員で参加させていただきました。石巻専修大学の見学でしたが、担当の先生が各学部、各学科の違いもひとつひとつ丁寧に説明していただき、参考になりました。迫桜の卒業生の方も在学中で活躍していると伺いました。県北にも、素晴らしい大学があるのだと改めて学ぶことができました。食事は、滝川という大正二十年創業の和食の店で、普段の生活では味わうことのできない、ゆったりとした時間を過ごすことができました。その後、語り部の方と道中を共にし、被災地の矢本、石巻の門脇地区を案内していただきました。震災から7年たちますが、後片付けがほぼ終わり復興は始まったばかりという印象でした。最後にサンファンバウテスタ号とサンファン館を見学しました。十年位前、母方のお祖母さんと見学に来て、船の中も見ることができました。今はもう中は開放していないし、二年後に解体との方針だそうです。とても残念な気持ちになりました。一日の研修でしたが、役員並びに先生方に感謝申し上げます。今後、生徒中心に私は良きサポート役になれますよう努力することを誓いPTA研修レポートといたします。



全国大会

8月20日(月)・21日(火)

全国高P連佐賀大会に参加して

副会長 佐藤 みゆき

台風が心配だった九州。第68回全国高等学校PTA連合会大会が佐賀市内の他4つの市5会場で開催されました。「広めよう 高めよう 滋む心」～君たちがつくる希望の明日を～このテーマは子どもたちが、学校・家庭・地域・社会において滋む心を忘れず、私たちPTAがその支えとなり希望の明日をつくるための一歩を踏み出す大会にしたいと実行委員長さんの言葉が印象的でした。

1日目の基調講演ではラジオDJのレモンさんこと山本シュウさんのトーク～滋しみの愛言葉! we arerシンセキ!～と題し、私たち親が具体的に明日からできそうな行動・本当のコミュニケーションの形・捉え方・練習の仕方など、とても解りやすく夢中になって聞き入ってしまった70分でした。特に共感笑ってしまったことは「昭和の愛しいチップ」と言う言葉。昭和生まれあるあるの内容でした。①すぐ感情的になる②人の話を聴かない③絶対自分が正しい④極端⑤上から目線⑥すぐダメ出しをする⑦すぐ悪者を作る⑧すぐ戦闘モード⑨相対評価(絶対評価)⑩男尊女卑(自分らしく)この10個のこと皆さんの周りにも1人くらい居ませんか?子どもに注意をする前に自分自身を見直し改める必要があると感じた講演でした。

分科会で全国の代表のPTA活動・子どもたちとの関わりについて事例発表・研究協議しました。その後、佐賀県出身のはなわの歌とトークの中、昼食をいただきました。

2日目はバルセロナオリンピック柔道71kg級金メダリスト古賀稔彦氏の記念講演がありました。暖かみのある心を洗われる様な内容のトークでした。

迫桜Tシャツを着て参加して沢山の学校から声をかけてもらい会話ができて充実した2日間でした。



スマートフォンは何のために使うのか？



教養部長 熊谷 洋一

iPhoneが2007年に米国で発売されてから10年以上経過した。総務省の調査によると、ここ5年ほどでスマートフォンは国内で爆発的に普及している。個人のスマートフォンの保有率は20代・30代で9割を超え、13～19歳でも81.4%となっている。本校で実施したスマートフォン等の情報端末に関する調査においても99.3%の生徒が所持しており、もはや生活にはなくてはならない物となっている。

これだけ普及すれば問題点もあり、SNSによる人間関係上のトラブルは社会問題にもなっており、本校でもたびたび生徒指導部から注意喚起をしているところである。今回は、それとは見方を変えて、「学習」に及ぼす影響について考えてみたい。

一番に思いつくのは「手軽さ」である。片手で持てる大きさで様々な機能を使うことができる。この「手軽さ」を利用した学習アプリも多数存在する。家庭学習はいつたん始めてしまえばある程度進むのだが、その始めることがなかなかできない生徒が多いのではないだろうか。勉強するために教科書やノート、辞書などを準備しなければならぬということに対して抵抗があり、なかなか手が見つからない。しかし、スマートフォンを使えば、動画を見たり、検索をしたりすることも、「手軽」に行うことができ、抵抗なく勉強を始めることができる。

しかし、これだけでスマートフォンが「学習」に対して良い影響を与える物だと断言することはできない、なぜなら、スマートフォンの「手軽さ」は勉強以外にも当てはまるからである。私が小学生の頃、ファミリコンデビュー（ファミコン）という家庭用のテレビゲーム機が流行り、持っている友達のうち集まって遊ぶことが多かった。小学校ではゲームのしすぎに注意するよう指導され、1日1時間等の制限をかける家庭が多かったように記憶している。家には常に大人がいて、テレビとゲーム機の配線をしてこっそりと遊ぶわけにもいかない。それが今だとどうだろうか、スマートフォンであればどこでも「手軽に」ゲームができてしまう。ゲーム以外でも、SNSをしたりインターネットで動画を見たりすることも同様である。本校生徒の1日のスマートフォンの使用時間は3時間以上が45%、4時間以上が26%であることから、スマートフォンの「手軽さ」によって、娯楽に時間を割いてしまっている状況が考えられる。これでは十分な学習時間（目標は平日90分）

が確保できないのも当然である。「手軽に」楽な方に流れていかないうち、自分がやるべきことをきちんと見定めなければならぬ。

さらに、LINEなどのSNSを使っている生徒の様子をみると、常にスマートフォンに注意を払っている。そして、着信があればすぐに返信する。そのときの生徒の指先の早さは私からすれば異常な早さである。ある意味、すごい集中力だと思いが、いつ着信があるか分からない状況でその他のことに支障が出ないはずがない。当然、「学習」に対してもスマートフォンに意識が向いている状態であれば、集中して取り組むことはできず、効果的な勉強時間を確保することができない。このことは、学習以外にも当てはまる。食事中にもスマートフォンを手放さず、布団の中でもゲームに夢中で、外出中にスマートフォンが電池切れで落ち着かなくなる様子では生活習慣そのものに悪い影響が出てくるのも当然である。生活習慣が崩れれば学習習慣の確立もできるはずがない。

このようにスマートフォンによる学習に対する悪影響は量と質の両面にある、悪い部分ばかり取り上げたが、残念ながら学習に関してはこれが現実である。これからの社会においてスマートフォンがなくなることはまずないだろう。最終的には使用者の意識にゆだねられることになると思うが、迫桜生やこれからの子供たちにはスマートフォンに合わせた生活を送るのではなく、自分の生活が充実するの一助として活用することを考えてほしい。





「迫桜 第35号」に寄せて

校長 牛 来 生 人

保護者の皆様方におかれましては、日頃より本校教育活動にご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

今年の夏の暑さはこれまでにないほどです。加えて本校校舎には熱のこもりやすい箇所が多く、保健室を中心に教室の室温調査、生徒の健康観察等に注意しているところです。

その中で7月13日（金）に行われた球技大会は、前日の雨の影響からアリーナでの開催となり、バレーボール、ドッチボールの各競技に全校生徒が取り組み、大きな事故もなく終えることができました。競技会場が一カ所に集中できたことから、各クラス・年次とも大いに盛り上がり、競技内容もトーナメントが上がるにつれて白熱し、全校が一体となった応援が見られました。生徒達の態度も好ましく、心配された暑さも休憩を各自が挟んだためか倒れる者もおらず、とても素晴らしい一日となりました。

「迫桜生は行事に燃える。」と言われる一方で、「盛り上がる生徒とそうでない生徒との違いが大きい。」「皆で参加し、皆で楽しめる行事を作りたい。」という声も生徒達から聞かれます。今回の球技大会が大きく盛り上がったことは、運営の仕方を工夫することで全生

徒が参加し、声援を送ることができる場が生まれること、また、学校の一員として行事に参加し、楽しみ、貢献したい、と生徒の多くが望んでいること、がわかりました。

また、西日本の豪雨災害への支援に関し本校生徒会は、7月18日（火）にヨークベニマル若柳店で募金活動を、19日（木）・20日（金）には各クラス代議員による校内募金活動を行いました。4万円を越す募金が集まりましたことを、この場をお借りして皆様方にご報告し、ご協力への御礼を申し上げます。募金は河北新報社を通じて被災地に届けられます。

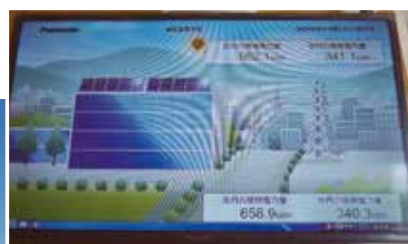
人のために何かしたいという生徒の素朴な気持ちを実行するという形にすることは私たち大人の役割でもあります。今回、募金活動を実施したことは本校生徒にとって、大変意義深いことだったと思います。中心となった生徒会執行委員、代議員の諸君に拍手を送ります。これからの社会を支える一員として必要な考え方、経験を、高校時代にできるだけ多く味わうことができるよう、支えていきたいと思う次第です。

迫桜 新発見!!

今年度、「みやぎ環境税」を活用した、迫桜高校エコファームプロジェクトが農場に完成しました。

太陽光発電によって、発電された電気は蓄電池に送られたのち、植物工場へと送られ、エアコンを用いて一定の温度と水耕栽培により、天候に左右されること

なく植物を栽培することが可能となりました。また、閉鎖的な環境で植物を栽培することから、農薬を使用しない安全な作物を栽培することが可能となりました。現在はアグリビジネス系列を中心にレタスの栽培を行っています。



専門委員会の活動

企画委員会

気軽に 参加してみませんか？

委員長 鈴木 亜矢



企画委員会では、会員間の交流を深める事業を目指して活動をスタートさせました。

「研修旅行」は、進路委員会と合同で企画しました。石巻専修大学の見学では、広いキャンパスに驚きながら3学部・7学科の内容や学生達のキャンパスライフについて理解を深めました。迫桜高校の卒業生が活躍している様子もお聞きすることができ有意義な時間でした。被災地語り部ガイドツアーでは、大曲浜から門脇・南浜地区を巡りながら貴重なお話を聞くことができました。広がる更地や今なお残る多くの瓦礫や当時の映像に改めて心が痛みました。

「迫桜祭のバザー」では、会員の皆さんからたくさんのお品を提供していただき、盛況のうちに終了することができました。収益金については、PTA活動や在校生のために有意義に活用させていただきます。

今後は、十月の年次PTA開催時に「進路ガイダンス」が行われます。子供達の進路について理解を深める良い機会となりますので、多くの会員の皆さんの来校をお待ちしています。

あまり重荷に考えずに、ちょっと子供達の活動の様子を見に行くといった気軽な気持ちでPTA活動にどんどんと参加してみませんか？

委員

- 尾形美津恵 (一の二) 三浦 健 (三の二)
- 高橋 恵 (一の二) 佐藤和奈恵 (三の三)
- 高橋 昌美 (一の二) 佐々木達幸 (学 校)
- 千田 義高 (二の二) 渡辺 武浩 (学 校)
- 川田清太郎 (二の三) 千葉 亮 (学 校)
- 三浦 智恵 (二の五)

進路委員会

未来に向かって

委員長 菅 原 由 美



進路委員会では、「保護者も一緒に進路の勉強をしよう。」を活動方針にして、一年間活動することにしました。保護者も子供に寄り添って学ぶことが、彼らの励みになると思います。

さて、進路委員会では毎年、企画委員会と合同で会員研修旅行を実施しています。今年は、七月二十一日に石巻市に行つて参りました。まずは石巻専修大学を訪ね、その後被災地語り部ガイドツアーに参加致しました。そして最後にサン・ファン館（宮城県慶長使節館ミュージアム）を訪れました。会員の皆様にとっては、貴重な体験になったと思います。

次に十月二十一日には、PTA親子進路ガイダンスが予定されております。御多用の事とは思いますが、是非参加して頂き、親子共に有効な時間を過ごして頂きたいと思っています。

この先、子供たちには明るい未来が待っています。ですが、思い通りにならないことも、沢山あるでしょう。そんな時にいつでも頼ってこられるような保護者でいたいと思います。

どうぞ、ご協力のほど、宜しくお願い致します。

委員

- 佐藤 忠美 (一の二) 高橋 雅美 (二の三)
- 佐々木 玲 (一の二) 相馬真由美 (二の四)
- 菊池 恵 (一の三) 後藤智恵子 (三の二)
- 菅原 敏宏 (一の三) 石川 勝 (学 校)
- 大野 美枝 (二の三)

健全育成委員会

協力と連携

委員長 千葉伸明



健全育成委員会では「生徒の健全な育成を図る」を活動方針のもと活動しております。

主な活動として、七月二十二日に行われました。夏季休業前、学警連市内合同巡回を、本校教職員並びに、若柳警察署と合同で行いました。

今後の活動としては十月二日の正門前でのあいさつ運動、十二月二十一日の冬季休業前学警連市内合同巡回、一月二十一日の薬物乱用防止教室を予定しております。

健全育成委員会の活動は、保護者の皆様をはじめ、教職員や警察、地域の方々のご協力があつてこそその活動だと思っております。

ご多用とは存じますが、多くの皆様のご協力よろしく申し上げます。

- 委員
- | | |
|--------------|-------------|
| 小野寺みゆき (一の一) | 佐藤稲津枝 (二の四) |
| 佐藤和哉 (一の五) | 鈴木育恵 (二の五) |
| 川村光宏 (一の五) | 高橋紀子 (三の三) |
| 佐藤和也 (二の一) | 西城久美 (三の四) |
| 小澤大助 (二の二) | 阿部まゆみ (三の五) |
| 鈴木和香子 (二の二) | 早坂栄一 (学) |
| 菅原洋一 (二の三) | 校) |

広報委員会

情報の共有を

委員長 小野寺正隆



「広く皆様に読んでいただける広報誌を」を活動方針として、広報委員会では、一年間活動して行く事にしました。

号外を含め、35号・36号の発行にむけ、広報委員全員で広報誌の内容を精査し、今PTA会員の皆様に必要な情報や子どもたちの情報の共有、話題の共有等に活かしていただける様な広報誌にするべく議論を重ねているところです。

今後ともPTA会員の皆様や、OB、OG、地域の皆様、先生等の協力を得ながら、広報「迫桜」を発行していきたいと思っております。

より良い広報誌となります様、よろしくお願いいたします。

- 委員
- | | |
|-------------|-------------|
| 伊藤あけみ (二の三) | 鶴岡美貴 (三の一) |
| 鈴木憲子 (二の四) | 佐々木洋子 (三の一) |
| 千葉清香 (二の一) | 佐藤みゆき (三の四) |
| 三浦文恵 (二の一) | 佐藤久美子 (三の四) |
| 大山広美 (二の一) | 菊地美穂 (三の五) |
| 小野寺孝司 (二の二) | 高橋朋 (学) |
| 鈴木弥生 (二の三) | 校) |
| 佐藤千代 (二の四) | 斎藤陽介 (学) |
| | 校) |

前期の歩み

よし!! いくぞー!!



球技大会



期待を胸に



入学式



職場体験

選挙講話



生徒総会



清き一票を!!



スクールライフ HAKUOU



ハイタッチ!!

総 体



どんな作戦で行こうかな…

バイク実技講習会



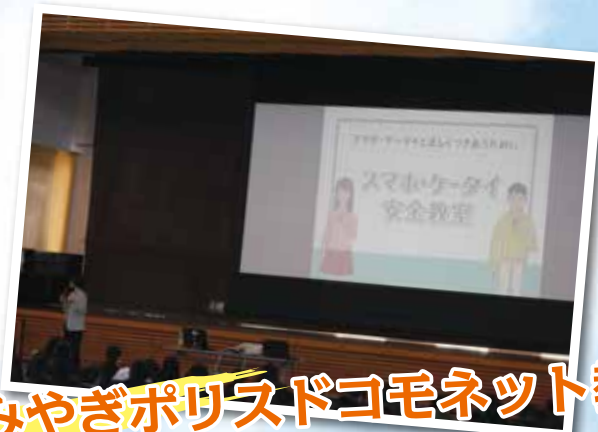
安全運転に努めましょう。



郷土料理講習会



なにができるのかな?



みやぎポリスドコモネット教室

特集 迫桜を知る!!

～迫桜高校ではこんなことを学んでいます～

エンジニアリング

自動車を中心とした機械技術や土木・測量の技術を習得するとともに、身につけた技術を生かした進路実現を目指す。

主な授業内容

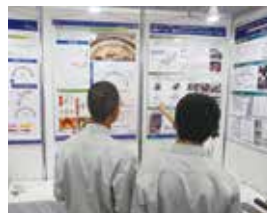
測量 土木実習 建築構造 土木施工 自動車工学
機械設計 自動車実習 機械製図

取得できる資格

測量士補 危険物取扱者 2級土木施工管理技術検定
アーク溶接特別教育 ガス溶接技能講習

各種取り組み

東北職業能力開発大学校との高大連携授業
EE 東北・トヨタ東日本工場見学等



アグリビジネス

水稻・草花・野菜を中心に農業について生産から販売まで総合的に学習し、農業関連の進路を目指します。

主な授業内容

農業と環境 草花 野菜 農業機械
植物バイオテクノロジー 食品化学 食品製造 生物活用

取得できる資格

アーク溶接特別教育 ガス溶接技能講習
毒劇物取扱責任者

各種取り組み

くりこま高原駅花壇植栽 若柳金成インター花壇植栽
市内各所プランター設置 若柳小学校芋掘り体験



人文国際

国公立の文科系大学の進学を目指します。国語・地理・英語などを多く選択します。

自然科学

国公立の理科系大学の進学を目指します。理科・数学などの科目を多く選択します。

福祉教養

福祉関係の知識と技能を習得し産業界での活躍を目指します。福祉に関する科目を多く選択します。

主な授業内容

社会福祉基礎・介護福祉基礎・こころとからだの理解
生活支援技術・介護総合演習・介護実習

取得できる資格

介護福祉士国家試験受験資格 介護職員初任者研修
赤十字救急法救急員 赤十字ベーシックライフサポーター

各種取り組み

東北地区高校生介護技術コンテスト わかやなぎ福祉のつどい みやぎ産業教育フェアへの参加



情報科学

コンピュータに関する知識と技能を習得し、情報関連の進路実現を目指します。

主な授業内容

簿記 財務会計 原価計算 プログラミング
マーケティング ビジネス実務 総合実践

取得できる資格

全商簿記実務検定 全商情報処理検定
全商ビジネス文書実務検定 全商珠算・電卓実務検定

各種取り組み

迫桜カフェ ICT 教育出前授業





支部総合体育大会結果報告

◆卓球部◆

男子学校対抗 優勝

男子ダブルス

第一位 佐々木雄大

佐藤 永遠

男子シングルス

第一位 佐々木雄大

第二位 佐藤 永遠

女子学校対抗 優勝

女子ダブルス

第一位 佐藤 和花

千田紗璃亜

第二位 小野寺優月

高橋 志帆

第三位 岩松 穂香

小野寺愛美

女子シングルス

第一位 佐藤 和花

第二位 千田紗璃亜

第三位 岩松 穂香

小野寺優月



◆バドミントン部◆

男子学校対抗

一回戦敗退

女子学校対抗 準優勝

女子ダブルス

第三位 千葉 花生

三浦 美月

女子シングルス

第三位 千葉 花生

◆柔道部◆

男子団体

第二位

男子個人

【軽量級】

第一位 佐々木陸十

第二位 菊地 直人

第三位 千葉 躰斗

【中量級】

第二位 尾形 智希

第三位 長谷川蔵人

◆ソフトテニス部◆

男子団体 第三位(Aチーム)

男子個人 (県大会出場)

千葉諒汰・宝来優輝ペア

第二位

高山琉貴・加藤大和ペア

女子団体 一回戦敗退

女子個人 (県大会出場)

阿部恵・阿部幸奈ペア

千葉古都里・加藤綾香ペア

菅原朱里・高橋詩桜ペア

◆陸上部◆

男子

一五〇〇M

第七位 奈須野紘季

五〇〇〇M

第七位 奈須野紘季

第十五位 奈須野瑞希

三〇〇〇MSC

第九位 奈須野紘季

第十一位 奈須野瑞希

走幅跳

第七位 菅原 拓斗

三段跳

第五位 菅原 拓斗

やり投げ

第五位 佐々木 歩

第六位 鈴木 光

女子

一五〇〇M

第六位 村上 凜

三〇〇〇M

第五位 村上 凜

第十位 佐々木千夏

一〇〇MH

第二位 菅原 千紘

四〇〇MH

第三位 高橋 冨佳

走高跳

第三位 佐藤 真恋

◆ホッケー部◆

第二位

◆ソフトボール部◆

第二位

◆バレーボール部◆

男子 優勝

女子 優勝

◆バスケットボール部◆

男子 第六位

女子 第四位

◆サッカー部◆

第三位

◆野球部◆

一回戦敗退

◆弓道部◆

男子 第三位

女子 第三位

(男女共Aチーム)

女子個人

第四位 鈴木優貴乃

◆剣道部◆

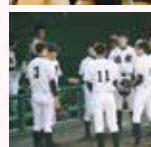
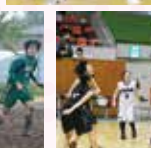
男子団体 予選リーグ敗退

女子団体 準優勝

(迫桜・岩ヶ崎合同)

男子個人ベスト8 伊藤翔汰

女子個人ベスト8 宮東春菜



東北大会出場 おめでとう!!

宮城県高等学校総合体育大会の結果、
陸上部、卓球部、ホッケー部、水泳部
が東北大会出場を決めました。
応援ありがとうございました。

【陸上部】

男子走り幅跳び	第6位	菅原 拓斗
男子三段跳び	第5位	菅原 拓斗
男子やり投げ	第1位	佐々木 歩

【水泳部】

男子二〇〇M バタフライ	第1位	佐々木 侑汰
男子一〇〇M バタフライ	第4位	佐々木 侑汰

【卓球部】

女子学校対抗	第3位	
女子シングルス		
ベスト16	佐藤和花	東北大会へ

【ホッケー部 女子】

第2位



第二十五回宮城県高文連 栗原・登米支部総合文化祭

六月二十三日(土)～
二十四日(日)、ドリコム・
パルを会場に開催されまし
た。

【写真部】

金賞・生徒推薦賞	太田 彩花
銀賞	山崎 永愛
銅賞	千田 樹璃
銅賞	小野寺朱梨
銅賞	山崎 愛花

【書道部】

最優秀賞	小野寺柊佳
優秀賞・生徒推薦賞	佐藤 亜海
優良賞	曾根 麻由
生徒推薦賞	佐藤 朱莉

【美術部】

優秀賞・会員推薦賞	曾根 璃奈
優秀賞・会員推薦賞	佐々木美維
会員推薦賞	佐藤 知菜



祝 全国大会出場!!

水泳部

バタフライ200mインターハイ出場

3年3組 佐々木 侑汰さん

東北大会では、200mバタフライで2位を取りインターハイに出場しました。

インターハイは、地方大会とは違い独特な雰囲気があり、とても緊張しました。インターハイでのレースの結果は、あまり良くありませんでした。しかし普段の生活では味わえないことを経験できたのでとても有意義な大会でした。

またインターハイまで一生懸命やってきたことが無駄ではなかったとレース後に思いました。進学後は水泳はやりませんが経験して得たことを他の時でも大事にしたいです。



写真部 全国総合文化祭

3年3組 石川 舞雪さん



私は8月8日から11日までの4日間、宮城県代表の一人として信州総文祭の写真部門に参加してきました。普段中々行く機会のない長野県で、素敵な人たちと沢山出会い、豊かな自然に触れて、様々なことを学び吸収できたとても貴重で充実した4日間だと感じています。

今回この信州総文祭の開催にあたり会場設営をしてくれた長野県の高校生の皆さんには本当に感謝しています。私はこれからもきつとずっと写真が大好きです。今はまだ知らない新しい景とまた出会った時、写真という形でその時思ったこと感じたことをたくさん残していきたいと思いました。

地域の声

— 迫桜を支える方々 —

音楽と花で地域とつながる

新山区長 鎌田俊雅



迫桜高校吹奏楽部の皆さんには昨年、自治会行事に参加をいただき敬老祝賀会に花を添えて頂いた事を深く感謝します。拍手喝采の大好評でして今年もまた参加頂けるよう事をすすめているところです。今後ともこのつながりを大切にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。
音楽だけが世界語であり翻訳される必要がない(バッハ)

去年の敬老会行事が迫桜高校と地域との初の連携だと思っておりましたが、そんなことはありませんで学校の諸行事を通じて学校と地域は充分つながっていました。職場体験、ボランティア活動、あいさつ運動、図書館・食堂の一般開放、迫桜祭、広報誌を通じてのつながりです。

なかでも花を介してのつながりは迫桜高校ならではのユニークで美しい行事だと思えます。公共施設の花壇を季節の花で飾ってくれていることにあらためて感謝します。花を介しての繋がりをさらに発展させるには何かないか

ろうか、もっとアピールすべきではないだろうか。いざいざと考えると思いました。見るもよし見ざるもよしされど我は咲くなり(武者小路実篤)

学校と地域の連携については、いろいろな考察がなされています。

「学校・地域連携が学生の豊かな成長を支えるもつとも有力な教育活動であり最も効果的な地域づくりの手法で地域の住民にとつても大きなメリットがあると考えられる。

それは、地域を支える住民に社会参加を促し住民同士を結びつけ一人ひとりの住民を大きく成長させるとともに地域社会に社会関係資本を生み出し、それをもとに未来の地域社会を創っていく活動でもあるからです。」と論じているところもあります。

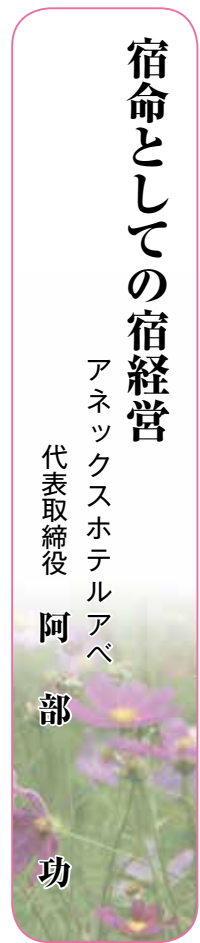
まさに、「目からうろこ」です。

「隗より始めよ」の故事に倣い地域の私達が学校・地域コーディネーターとして少人数でも学校行事に参加をし迫桜高校をもっと知り、相互の理解を深めていければ有難いと思っております。

宿命としての宿経営

アネックスホテルアベ

代表取締役 阿部 功



今から16年前、迫桜高校さんの近くで始めた全28室の小さなホテルは、多くのお客様、従業員スタッフ、地域の企業様がたに支え愛されながら育てていただきました。今まで営業をさせていただいたこと大変感謝しております。この16年間、多くの方々との出会いと別れを繰り返してきました。その中には、お客様のみなならず、従業員、家族との出会いと別れもありました。

私は、旅館という特殊な環境で生まれ育ち、宿というものの役割、大変さを幼いころから親の背中を通して感じました。普通の家庭に憧れ、普通というものを追い求めていました。そんな私が、人とは違う道を歩みながら感じたことは、人はそれぞれ違っていいし、生き方に正解はなく、自分の人生は自分自身で切り開いて行くものだ。誰一人として同じ道、平坦な道はなく、それぞれが、喜びや悲しみ苦しみを経験しながら、日々を過ごしているのだと・・・。そして人生において起きたこと全ては自分の学びであって、何一つ無駄なことはなかったと今になって気が付きました。私は未熟な故に多くの人に迷惑をかけてきましたが、一方で多くの方々に支えられ、ここまで来

ることができました。私の使命は、私が先祖や地域や家族から授かった全ての資源を有効に活用し、この地域にまた来たいなと思っただけの宿を経営することです。そして、お客様も従業員も幸せになれる宿であり続けたいです。

近い将来、迫桜高校の生徒さんもこの地域から巣立っていくと思います。そして、社会で様々なことを経験し、成長していくはずですが、成長した皆さんが、この地域に戻ってくる際、私たちは、良き宿であり続け、良き故郷であり続けたいと思います。それが、私の宿命であり、この地域で事業をさせていたでいてるものの役目だと思えます。将来を担う皆様方が、多くの経験を通して成長し、社会において活躍されることを心よりお祈り申し上げます。



PTAからのお知らせ

平成
三十年
度
後期
の
予
定

27日(月)	25日(金)	22日(金)	14日(火)	12日(火)	11日(月)	8日(金)	7日(木)	6日(水)	3月28日(土)	25日(月)	8日(木)	5日(火)	4日(月)	1日(金)	31日(土)	19日(土)	1日(火)	24日(月)	21日(金)	11月24日(水)	7日(水)	21日(水)	22日(月)	21日(日)	15日(月)	10日(水)	5日(金)	2日(火)	10月1日(月)
離任式 (1・2年次出校日)	年度末休業 (31日)	修了式	後期選抜入試合格発表 (生徒休業日)	入試事務 (生徒休業日)	みやぎ鎮魂の日 (生徒休業日)	入試事務 (生徒休業日)	入試事務 (生徒休業日)	後期選抜入試 (生徒休業日)	卒業式 同窓会入会式 (28日)	前期選抜合格発表 (8日)	1・2年次後期末考査	3年次後期末考査	入試事務 (生徒休業日)	入試事務 (生徒休業日)	前期選抜入試 (20日)	センター試験 (1・2年次)	全校集会 基礎力診断 テスト	全校集会	冬季休業 (1月7日)	修学旅行 (7日)	後期中間考査 (27日)	後期生徒総会 防火避難訓練	振替休業日 (年次PTA)	PTA進路ガイダンス	年次PTA	交通安全教室	開校記念日 芸術鑑賞	運動会 (4日)	衣替え・後期授業開始 秋の交通安全街頭指導

年次PTA・PTA進路ガイダンス

10月21日(日)

に行います。
ぜひ、ご参加ください。

編集後記

PTA会報「迫桜」35号をご愛読いただきましてありがとうございます。35号の発行に際しまして、ご多用のところ原稿執筆にご協力くださいました事に感謝致します。

今回は近年問題になってきているスマートフォンと学習との関係性や、本校の系列別の紹介・生徒の活躍の様子を取り上げました。また、写真を紹介するページでは行事の写真は

もとより、授業風景や日常の何気ない一コマをお伝えできればと思います。成しました。

今後も「広く皆様に読んでいただける広報誌を」を合言葉に、会員の皆様に迫桜の旬をお届けして参りますので、今後とも会報発行にご理解とご協力くださいますようお願い申し上げます。

広報委員一同

迫桜祭 PTAバザー

今年も大盛況に終わる事ができました。たくさんのご協力ありがとうございました。

会員の皆様からの多くの出品をいただき49,480円の収益となりました。

また当日、西日本豪雨災害募金として募金箱を設置し2,522円の募金をお預かりしました。

バザー収益金については、学校備品の購入に使わせていただきます。募金はバザー収益金の一部とあわせて全国高等学校PTA 連合会を通して西日本豪雨災害被災地各県の高等学校教育支援の義援金として寄付させていただきます。

(PTA 事務局)

